

沖縄語の学習における助詞と振り仮名の問題（2枚）

2007年6月18日

沖縄語研究者 船津好明

1、表記の実例

次のように助詞を漢字で読ませるとい実例があります。問題に思います。（ ）内は共通語です。

× A群：^{うたー}歌（うたは）^{たえー}二人（ふたりは）^{むもー}桃（ももは）^{いのー}犬（いぬは）

これに類する書き方はたくさんあります。問題は振り仮名の「ー」の位置にあります。

「ー」は直前の音を伸ばす印で、この場合は助詞の音に当たります。同じ音の仮名に置き換えれば、次のようになります。

× B群：^{うたあ}歌（うたは）^{たええ}二人（ふたりは）^{むもお}桃（ももは）^{いのお}犬（いぬは）

文語風に書けば、音が変わり、

× C群：^{うたや}歌（うたは）^{たいや}二人（ふたりは）^{むむや}桃（ももは）^{いんや}犬（いぬは）

となります。

B群C群の振り仮名の最後の一字は助詞の音です。B群はA群と全く同じ音です。

このように、助詞を漢字で読ませるのは好ましくありません。

振り仮名や助詞は共通語の書法と整合させないと、学習者は二重に覚えなければならなくなり、学習負担が増えます。さらに共通語の間違いを招くなどして、学力にも悪影響をきたします。ちなみに、上記の書き方を共通語に対応させてみます。

× D群：^{うたは}歌、^{ふたりは}二人、^{ももは}桃、^{いぬは}犬

この書き方は誤りです。正しくは助詞を振り仮名から切り離し、

E群：^{うた}歌は、^{ふたり}二人は、^{もも}桃は、^{いぬ}犬は

となります。同じ考え方でB群を書き直せば、

F群：^{うた}歌あ（うたは）^{たえ}二人え（ふたりは）^{むも}桃お（ももは）^{いの}犬お（いぬは）

となり、これは正当です。同様にA群を書き直せば、

G群：^{うた}歌ー（うたは）^{たえ}二人ー（ふたりは）^{むも}桃ー（ももは）^{いの}犬ー（いぬは）

となり、これも正当です。これに対し、上記のA群、B群は不適當です。

F群とG群は、音において全く同じ、漢字と助詞の関係においても、ともに共通語とよく整合しています。伸ばしの音を「ー」で表すか、仮名で表すかは表記技術上の違いで、音としては等価です。

沖縄語の表記において、F群とG群のいずれが望ましいかは、判断にもよりますが、筆者は沖縄語の表記に関する諸般の理由から、G群の「ー」を用いる書き方を採用しています。

漢字の振り仮名は読みの通りに振ります。個々の漢字をどう読むかが分かるように振るのが原則です。多少の例外はあります。漢字は読みが変わることがありますから、変われば変わった通りに振ります。共通語でも同じです。「来る、来た、来ない」など、同じ漢字でも読み方が変わります。

2、「^{うたー}歌」と書いては絶対に悪いか

絶対に悪いとは言いません。表現は自由ですから、特に意図があれば構いませんが、学習者に教える書き方としては不適切です。共通語でも「^{うたは}歌」と読ませるときは特別の説明が必要です。「歌は」なら振り仮名も説明も要りません。

3、「^{うちなーんちゅ}沖縄人」と書いてよいか

問題は「ん」を振り仮名に入れるかどうかです。「沖縄ぬ人」の「ぬ」との音便的關係を思うと、「^{うちなー ちゅ}沖縄ん人」の方がすなおで、学習者にはこの方が望ましいように思います。しかし「^{うちなーんちゅ}沖縄人」という書き方は多く見られ、習慣化している感じもします。非難するには当たらないし、他にも音便上の理由で振り仮名に入れざるを得ないような例外もあります。

4、結論

助詞は、音が変わっても原則として並字とし、漢字の振り仮名にしないことです。

照会先 〒1870002 東京都小平市花小金井 2-6-1 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp